



奈良町にぎわい通信

Vol.59

二〇二〇・啓蟄／春分

発行
奈良町
にぎわいの家





「かきもち作り」 岡井睦さん指導。まずはお餅を切るところから。切ったお餅を藁に挟んで編んでいきます。今年は暖冬のせいか、お餅が柔らかくて切りにくかったです。こんなところにも地球温暖化？！

「わが家にレコードがやってきた vol.4」

加藤デビット・ポップキッズさんによるSPレコードを蓄音機で聞くシリーズ。戦時の満州や上海の流行歌を聞きました。レコードと一緒に歌を口ずさむ97歳の方も。



奈良町にぎわいの家 2月のイベントから



うとうとSNさんによる「町家くん通信表紙展」。
奈良町の行事や景色が温かいエッセイと共に。

「町家の塀パネル展」
奈良町に残る美しい塀を紹介。
外国人も興味津々でした。

町家館内移動演劇公演
「花しまい」延期します。
(作・小野小町／演出・外輪能隆)



コロナウィルス感染防止ため、2月後半から3月末まで以下のイベントは中止となりました。ご予定いただいたお客様、関係者の皆様、申しわけありません。次の機会をよろしくお願いします。

- 3/1 タイムトラベル奈良町vol.11
- 3/7 みんなで味噌作り
- 3/8 にぎわい四季の茶会～啓蟄
- 3/14 二十四節気と俳句講座
- 3/15 にぎわい講談二人会
- 3/20 かまど体験



当館、堀内紀子による
「古帛紗作り」。沢山の申込みに
「え？古帛紗ブーム?!」
美しい小裂で皆さん素敵に
作りました。

事務局スタッフより～五年間をふりかえって～

2015年4月に開館した当館。季節ごとのしつらえや行事に、年に約140事業を企画、運営する中で、特に印象に残ったのは？

奈良町に特化した朗読劇（一刀彫の森川杜園やテイチクレコードなど）を市民参加で作りました。奈良町の近代を「町家から語る」事業を、今後も続けていきます。当館の空間の素晴らしさには、伝統美術から現代アートまで、沢山の展示をする中で毎回、感心させられました。この家が多くの方の努力によって残ったことに改めて感謝です。海外のお客様で印象に残ったのは、リトアニアからの団体に折り紙を差し上げたら、御礼にと合唱が始まり、町家の吹き抜けに美声が響いたこと。東京で公演を終えた合唱団の皆さんと後で知りましたが、突然のサプライズに感動しました。

おの・こまち



リトアニアの合唱団の皆さん



ここは、いろんな人との関わりが生まれる場。そんな思いがあります。建物の保持と観光最前線としての役割、このバランスに当初は戸惑いもありましたが、出会いが背中を押してくれました。雨後の庭で可愛いキノコを見つけてくれた人、時には率直に怒って下さった方、夏に毎朝涼みに来られたおじさん、this flower display is for youと床の間を簡単に説明したら嬉しいと泣き出した若い英国女性…。日々の小さな出会い。集う人も応援して下さい。人が居るからこそ広がる世界を、ここで、これからも楽しみたいと思います！

堀内紀子

この5年で、かまど体験は100回を超えました。火をおこし、ご飯を炊く。一緒に食事をする時には、知らない同志も親戚の集まりのような雰囲気になって、お話するのがうれしい時間です。他にも、しめ縄作りやかき餅作り、梅仕事、味噌づくり。なんでも買える便利な世の中ですが、自分で作る楽しさ、また、誰かとわいわい言いながら一緒に時間を過ごす楽しさを、にぎわいの家で改めて感じています！人の手で何かを作るということの大切さは、今も昔も変わりません。これからも体験を通した交流を続けますので、皆さんどうぞご参加下さい。

西村智恵



かまど体験



子ども達の笑い声が響く町家。5月のあったかい陽だまりに包まれて大きな鯉のぼりの絵に自由にペイントします。鯉のぼり青空ペインティングイベントです。手や服の汚れを気にせず自由に。「この色とこの色を混ぜたらどうなるの？」好奇心旺盛のキラキラした目で「見て見て、お母さん」の声が聞けるそんなコミュニケーションが取れるイベントでした。家に響く家族の声。みんなで描いたカラフルな鯉のぼりには色画用紙のうろこに願い事を書きます。＜家族みんなが幸せでありますように＞あったかい気持ちになれた瞬間でした。

甲斐栄子

にぎわいオリジナルスタイル～マーク&短歌&色紙

当館ならではの節気マークや歌に、ご尽力いただいた方々。
これからもその世界観を大切に発信していきます。

●節気マーク・デザイン 金田あおい(藍寧舎)

発信の要である節気マーク。24種類を節気の特徴を捉えて図案化。右の「啓蟄」は地中の生物が目覚める様子を見事にデザイン。奈良町在住の金田さんは、考古学をモチーフにしたグッズ展開でも知られる注目のデザイナー。節気マークのファンも多く、これからも金田さんの仕事に目が離せません。

●二十四節気短歌 喜多隆子(歌人・ヤママユ)

日本を代表する、奈良の誇る歌人、前登志夫の歌弟子である喜多先生は、これまで四冊の歌集を出版、奈良の民俗エッセイなども発表し、平明でありながら、深い世界の作品に定評がある実力派の歌人です。当館の短歌講座も担当。二十四節気短歌、24首は「先生、わかりやすい歌を！」との当方の依頼通り、親しみやすく自然と人間の交流を感じる温かい歌。第4歌集『柿の消えた空』(角川書店)に当館の節気短歌は所収されていますので是非ご一読下さい。

●節気&短歌の書 逢香(妖怪書家)

妖怪書家として大活躍の逢香さんに、節気と短歌の書をお願いした五年前、彼女がまだ学生で、毎月、大学への通学途中に作品を持ってきてくれました。玄関に節気の本を、床の間に短歌の本を掲示しています。絵や模様など、いろんなスタイルで書かれていて、見ていて本当に楽しい作品に感謝です。

ふくふくと啓蟄の畑耕され
はじめて土踏む
をさなごの足

虫も目覚める啓蟄、やわらかに
ふくふくと耕された土、子どもは
歩き始めたばかり。そんな子どもが、
初めて、土の上に立ち、踏むという、
いのちの輝きにあふれた歌です。

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)

節気マーク
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2020
春分

にぎわいの風景

事務局長 藤野正文

ようやく春の温かい日差しが差し始めましたね。「春分」から昼の時間が夜の時間より長くなってきました。

この3月で奈良町にぎわいの家を奈良町で活動しているまちづくりの仲間と五年間運営してきました。スタッフは何もかも初体験で「ともかく思うところをやってみよう」と様々なイベントなどを試行錯誤の連続を繰り返しながら、あつという間に五年が経ちました。

奈良を大切にしたい、奈良町・町並みが好き、町家を大切にしたい、人と話すのが好きなスタッフが集まり、このにぎわいの家で「日本の生活文化、町家のよさ、町家ぐらしの楽しさを味わってもらおう」、「奈良町の歴史やぐらし、隠れた魅力を感じてもらおう」、「海外の人にも町家の魅力や日本の暮らし・文化を伝えたい」、「奈良町を新たな文化発信の場所にしよう」などなどの思いがあふれ、様々な企画をしてきました。

この間、奈良町在住の茶道家・音楽家・デザイナー、近くの小中高等学校子供たちや先生たち、町家に関わる大工さん・畳屋さん・左官屋さん、古美術コレクター、講演・演劇をする人たち、日本・海外の現代アート作家さん、通訳ボランティアガイド、けん玉・コマ回し・しめ縄づくり・茶粥を教える方たち、伝統工芸

に関わる方たち、歴史家そして、そつと手作りの小物を寄付してくださる近隣のおばあちゃんなどにぎわいの家を巡って大きなひとの輪が広がっていました。また、活動範囲の輪も奈良町の町家ツアール、ならまちセンターでの演劇・シンポジウム、奈良町の他の施設との共催イベント、さらに奈良町の外につながる街道ウォークなどにぎわいの家を飛び出していました。

次の五年間もさらに大きな輪をつくりながら、私ども（奈良町にぎわいの家管理共同体）が奈良町にぎわいの家を運営してきますので、引き続き皆様のご意見、ご声援、ご支援、ご協力をいただければ幸いです。

奈良町がより住みやすい、暮らすのが楽しい、魅力のある、さらに全国・海外の人が憧れるまちになりますように。

なお、月刊でこのような形で皆様に便りを届けるのが今回で最後となりました。また、事務局だよりとして拙文を掲載するのも終わることとします。ありがとうございました。



蔵～2017年の風景



2019.6月
蔵で展示

海外のお客様
と一緒に、
折り紙作品も
海を越えて...

〓 西田スエ子さんを偲んで〓
この五年間、沢山の手作り品を提供して下さった、西田スエ子さんが逝去されました。西田さんの折紙は、沢山の来館者、中でも外国のお客様にとっても好評で、お持ち帰りの定番でした。季節感のある布細工は、これからも町家に彩りを添えることでしょうか。お力添え、本当にありがとうございました。

奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



啓蟄

3/5～19



春分

3/20～4/3



書：逢香

奈良町にぎわい通信vol.59

制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00～17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

さくら咲く青き夕べとなりけり
少年かへる道ほの白く

前登志夫